

平成28年度「静岡大学 地域連携応援プロジェクト」 成果報告発表

浜松市における自然・歴史観光のための インタープリター育成教材の開発事業

2017年5月11日(木)

杉山岳弘（静岡大学情報学部情報社会学科 教授）

村井梨乃（情報学部情報社会学科※、学生リーダー）

鈴木祥子（情報学部情報社会学科、学生副リーダー）

ほか編集部員 4 名

※H28年度に卒業

平成27年度地域連携応援プロジェクト事業成果 浜松鈴鈴 (はままつりんりん)

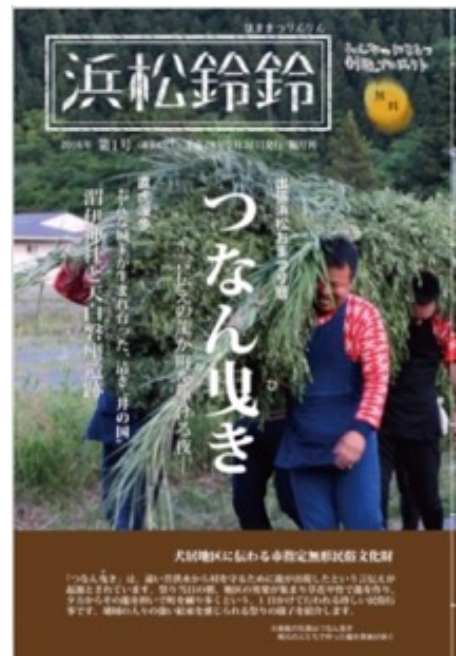
- ・地域文化情報誌5号発行 紙版、Web版、映像
<http://www.hama8rin.info>
- ・継続のための補助金の獲得
平成28年度みんなのはままつ創造プロジェクト採択

第1～5号



平成28年度の実績（広報誌発行）

- 全6号発行
- 5月、7月、9月
11月、1月、3月
- 4ページに増加
- 市民参加
- バックナンバー
の問い合わせ



本事業のきっかけ

①平成27年度の調査

「浜松市の観光協会における
観光情報の管理と流通に関する調査報告書」

※浜松市と湖西市の観光協会などの6つの
観光団体に対して現地まで行きヒアリング調査

→この調査の中で観光協会の方から
ガイド不足が心配であることを相談された。

②これまでの本研究室の成果

インタープリテーション支援、ガイド支援など

③平成28年度みんなのはままつ創造プロジェクト採択

「浜松おまつり情報のアーカイブ化および広報誌発行事業」

事業採択時のキックオフ:NPO法人ITOEの事業との関連性

プロジェクト概要

- プロジェクト名：

**浜松市における自然・歴史観光のための
インタープリター育成教材の開発事業**

- 実施期間：平成28年6月20日～平成29年2月10日

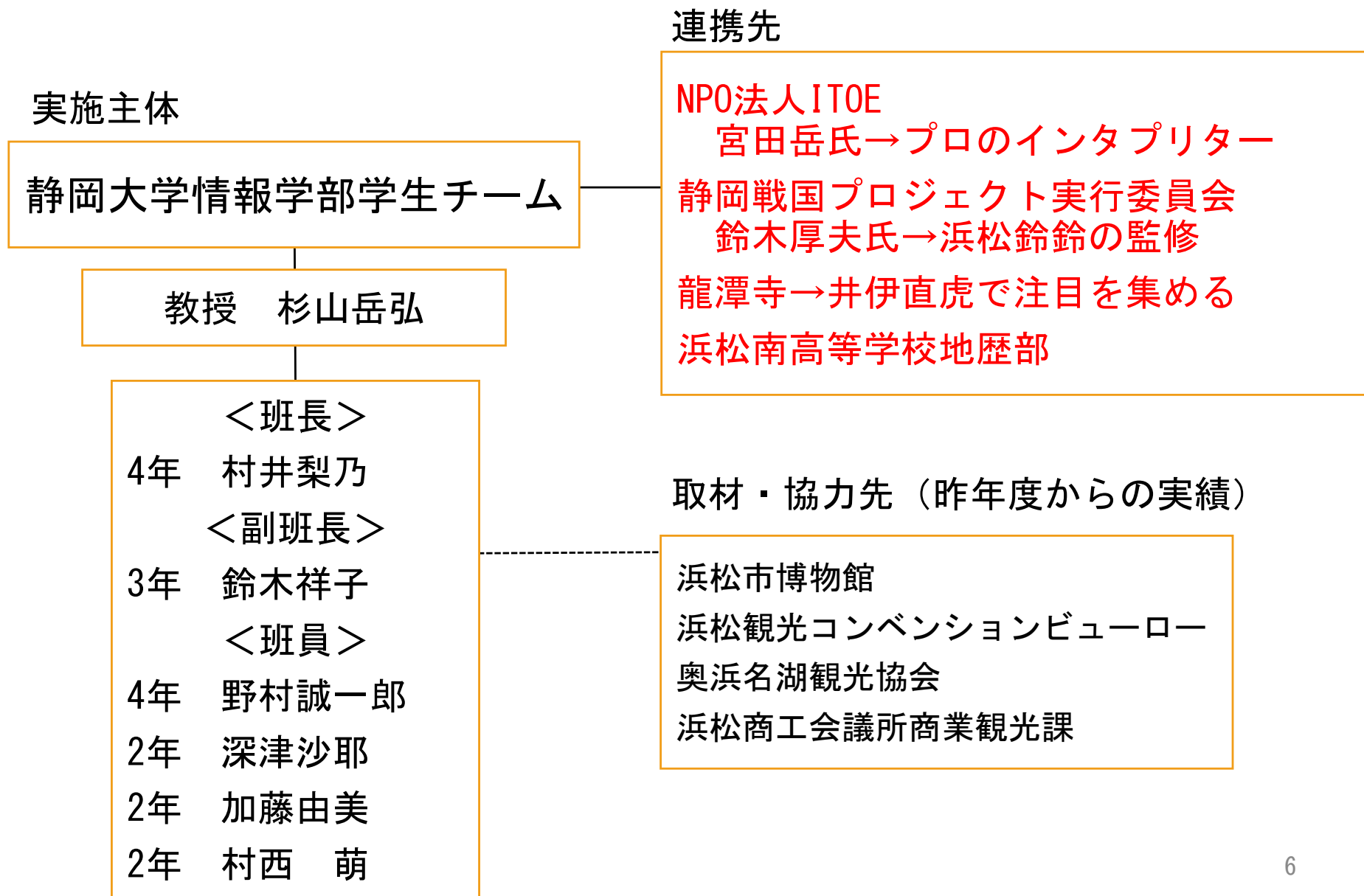
- 基本方針

- インタープリテーションの実践にこだわり教材化
- 奥浜名湖の自然・歴史の観光情報を対象
- ボランティアではないプロのインタープリターの育成

- 基本内容

- 奥浜名湖の自然・歴史観光スポットの取材・撮影・編集
- インタープリター育成講座のための電子教材の開発

プロジェクト体制図



期待される効果

- 学生に対して、浜松鈴鈴の持続的な運営と誌面に加え、映像メディアでの活躍の場を提供でき活性化が見込める。
- 計画として、龍潭寺の執事である武藤氏がボランティアの観光ガイド育成の講座を始めており、この事業と連携することでガイドの質を大きく高められると期待できる。
- 浜松南高校との文系の連携事業での高大連携意義は大きい。

実際のスケジュール

- 毎週木曜日 16:00~18:00 開発会議
- 6月~10月 観光スポットに関する情報収集
教材の内容検討
- 11月~1月 観光スポットの取材・撮影
インタープリター実践の撮影
- 12月~1月 映像の編集、教材の制作
- 2/8 (水) インタープリター育成講座の
試験的な実践
- 2/15 (水) ~2/17 (金) 報告書作成

インタープリテーションとは

- Freeman Tilden (1883-1980)が原則を提唱
- 自然を対象とした「解説活動」
 - アメリカやオーストラリアなど世界の多くの自然公園などで行われている
 - インタープリテーションを行う人＝「**インタープリター**」

目的

直接体験や教材を活用して、事物事象の背後にある意味や相互の関係を解き明かす

インタープリター育成の対象

- 有力な協力者
 - 龍潭寺→井伊直虎で注目を集める
 - 静岡戦国プロジェクト実行委員会 鈴木厚夫氏
→浜松鈴鈴の監修
 - NPO法人ITOE 宮田岳氏→プロのインタプリター
 - 浜松南高等学校 地歴部
- 大河ドラマ井伊直虎の流れは避けられない

実施内容概要

- 奥浜名湖の観光スポットの取材・撮影・編集（素材集め）
 - 龍潭寺のドローン撮影（9月26日、12月7日の2度実施）
 - 龍潭寺の展示物の撮影（11月28日、12月4日の2度実施）
 - 鈴木厚夫氏による直虎ガイドの撮影（12月4日）
 - 横尾歌舞伎（10月8日）、川名のひよんどりの撮影（1月4日）
 - 宮田岳氏によるインタープリテーションの撮影（1月23日）
- インタープリター育成のための電子教材開発
 - ①井伊家・井伊直虎に関する解説
 - ②インタープリテーションに関する解説
 - ③龍潭寺の観光情報に関する解説

観光スポットの撮影について

- 渭伊神社、天白磐座遺跡
- 龍潭寺ドローン撮影
- 龍潭寺境内
 - 本堂、大仏、うぐいす張りの廊下、古地図、龍の彫り物、開山堂(かいさんどう)、お位牌堂、庭園

本堂(龍潭寺)





龍潭寺庭園

大仏(龍潭寺)





龍の彫り物（龍潭寺）



開山堂（龍潭寺）

龍潭寺のドローンによる撮影

- 普段とは違った視点の龍潭寺を映像にて納めた
- 龍潭寺の住職の協力のもと撮影
- ドローン撮影は小林成彦さん(浜松山里いきいき応援隊)に協力依頼
- 撮影日:2016年9月26日、12月7日



映像

- https://www.youtube.com/watch?v=_IrRZue7VEY

インタプリテーションの実践について

- 鈴木厚夫氏による直虎ガイドの撮影(12月4日)
- 宮田岳氏によるインタプリテーションの撮影(1月23日)
- これらを撮影し、撮影したデータを教材に利用
 - 渭伊神社
 - 龍潭寺
 - 本堂
 - 大仏
 - うぐいす張りの廊下
 - 古地図
 - 龍の彫り物
 - 開山堂
 - お位牌堂・御霊屋
 - 庭園



渭伊神社





天白磐座遺跡(てんぱくいわくら)



天白磐座遺跡(てんぱくいわくら)



龍潭寺

(おまけ) 龍潭寺の武藤氏



インタプリテーションの電子教材

- ①井伊家・井伊直虎に関する解説
- ②インタープリテーションに関する解説
- ③龍潭寺の観光情報に関する解説

①井伊家・井伊直虎に関する解説

- 「浜松鈴鈴」の2017年1月号に掲載した龍潭寺の記事を解説文に使用
- 「浜松鈴鈴」監修・鈴木厚夫氏による井伊直虎のガイドを撮影、ガイド事例映像コンテンツを制作

1.2 井伊直虎と龍潭寺

インタープリテーションと龍潭寺について学ぶ前に、龍潭寺に縁のある井伊直虎（いいなおとら）について簡単に知っておきましょう。

井伊家は、平安時代から今日まで約1000年続く家系で、戦国時代には駿河・遠江（今の静岡県）の戦国大名である今川氏の家臣として、龍潭寺のある井伊谷（北区引佐町）周辺を治めていました。江戸時代の幕末に活躍した大老・井伊直弼（いいなおすけ）もこの井伊家の出自です。そして、井伊直虎は、戦国時代に滅亡寸前まで追い込まれた井伊家を救うため、井伊谷城主となった女性です。



▲歴史に詳しい方による井伊直虎公に関する解説の様子を収めた映像です。直虎公にまつわる歴史をじっくりとつかみましょう。ガイド協力：E-アーキテクト 鈴木厚夫さん

井伊直虎と許嫁・亀之丞

天文5年（1536年）頃のこと、直虎は当時の井伊家領主・井伊直盛（いいなもり）の一人娘として誕生しました。彼女は井伊家の本家の大切な一人娘であるため、父の従弟である亀乃丞（かめのじょう、のちの井伊直經）という歳の近い許嫁（いいなづけ）が決められていました。

しかし、井伊谷の地の支配を目標と今川氏の策略によって、亀之丞の父・直美は謀反を疑われて殺害され、亀之丞も命を置かれて井伊谷を秘密裏に抜け出します。こうして許嫁を失った直虎は、許嫁の嫁りを持ち続けますが、亀之丞は一向に帰ってきません。

出家の決意

このとき、直虎は龍潭寺の南渓和尚のもと、男として出家することを決意します。出家の理由には諸説ありますが、直虎は今川氏の意の届かなかった他的人物と結婚をさせられそうになり、出家すると結婚が許されないことから、井伊家存続のために出家したという説もあります。

直虎の出家への決意に対して両親が嘆く中、彼女は井伊家の菩提寺である龍潭寺の僧侶であった叔父の南渓和尚のもとを訪ね、「次郎法師」という僧侶の名を授かります。「次郎」は代々井伊家の跡継ぎの長男がつける名で、「法師」は僧侶の呼び名を意味します。つまり、直虎は井伊家の跡継ぎとして出家しました。井伊家と今川家の200年に渡る対立の歴史を知る南渓和尚は、直虎を最後の切り札として残すための策を講じたのでした。

② インタープリテーションに関する解説

- 考え方やガイドプログラムの作成手順に関する解説文や、「渭伊神社の名前の由来」をテーマとしたインタープリテーション事例映像コンテンツを、宮田氏の協力のもと制作

2.1 インタープリテーションの概要



▲浜松市北区丹伊谷にある渭伊神社で、渭伊神社の名前の由来をテーマにインタープリテーションを行った例の映像です。まずはインタープリテーションがどんなものかイメージをつかみましょう。

インタープリテーションってなに？

一般に、インタープリテーション (interpretation) とは「通訳」の意味ですが、ここでは自然が発するメッセージを分かりやすく人々に伝え、自然とのふれあいを通じて喜びや感動をわかちあおうとする主に自然を対象とした解説活動を指します。この手法は、アメリカやオーストラリア、ヨーロッパなど世界各地の自然公園で広く使われています。

さらに、自然だけでなく、地域の歴史や文化、あるいは人々の生活などの特色や、そこに着目面白さを伝えるガイドです。また、インタープリテーションを行う人のことをインタープリターと言います。

一般的なガイドとインタープリテーションの違いは？

一般的なガイドでは名所や建物などの情報を正確に伝えることを重視しています。一方、インタープリテーションでは、相手に合わせて対象がもつ情報を伝えながら興味や関心を引き出していくことを重視しています。

インタープリテーションの原則

インタープリテーションによるガイドは、アメリカのフリーマン・チルデンによって次のページのように考え方がまとめられています。

③龍潭寺の観光情報に関する解説

- 解説文に加え、1分以内の短い解説映像コンテンツを制作
- 龍潭寺の古地図と現在の境内の様子を比較できるように、ドローンを用いた空撮を実施

3.1 龍潭寺とは



▲映像を通して龍潭寺の概要を学びましょう。

龍潭寺は湖北五山の一つに数えられるお寺で、井伊家の菩提寺です。龍潭寺のご本堂前の作りは京都式の代表的な作りとなっています。本堂は京都式で、ご本堂・虚空蔵菩薩が祀られています。秘仏のため、図示に際して釈迦三尊物が隠されています。古文書も2000点も残っており、家康公の井伊直虎の文書も残っています。静岡県指定の文化財であり、350年もの間、火災にあっていないため、江戸時代から6棟(本堂、庫裏(くり)、山門、開山堂、御霊屋、稲荷堂)残っています。山門は明暦2年、本堂は延宝4年、開山堂は元禄15年、庫裏は文化12年に

34

3.4 本堂 (古地図)



▲映像を通して本堂内にある古地図について学びましょう。

本堂の中には、250年前の龍潭寺の古地図が展示されています。これは10年前のイベントのときに彦根博物館で展示されていたもので、そのデータをもとに展示しています。井戸や山門から玄関、書院、本堂、開山堂、御霊屋などすべて載っています。昔の大仏殿も載っていて、昔の様子に分かる地図です。また、なぜ、250年前の地図とわかったかという点、井伊家の御霊屋の遷葬式が250年前に行われた際に彦根から井伊直貞公を呼びよせ、安全ということを示すために地図を製作したこととわかったためです。地図から本堂の形がわかり、昔の形

35

インタプリテーション電子教材評価

- 日時：2017年2月8日（水）
13:30～15:30
- 場所：風杏(株式会社mocha-chai)
- 受講者：ガイド活動に関心はあるが、学習や実践経験のない3名
- 講師：NPO法人ITOE 宮田岳氏
- 内容：
講座および電子教材の趣旨を説明後、電子教材を用いた解説を1時間程度実施



インタプリテーション電子教材評価

- 電子教材の良い点
 - 紙と違ってかさばらない。
 - インタプリテーションの解説がわかりやすい。
- 電子教材の課題点
 - 教材の内容の一部は補足説明がないと正しく理解するのが難しい。
 - 初心者では話の膨らませ方やガイドプログラム等を考えるのが難しいため、龍潭寺でのインタプリテーション事例映像もあるとよい。

期待されていた効果は？

- 学生に対して、浜松鈴鈴の持続的な運営と誌面に加え、映像メディアでの活躍の場を提供でき活性化が見込める。
→浜松鈴鈴は継続でき、学生や地域にとってプラス
- 計画として、龍潭寺の執事である武藤氏がボランティアの観光ガイド育成の講座を始めており、この事業と連携することでガイドの質を大きく高められると期待できる。
→ガイド育成については十分に貢献できた
→撮影した映像の波及効果が大きかった
- 浜松南高校との文系の連携事業での高大連携
→十分に連携でき、互いにいい影響を与えられた

その他の成果

- ドローンの映像の波及効果
- 「浜松鈴鈴」+「NEWing」直虎旅譚
 - 計7本の連携記事
 - 浜松南高等学校、浜松商工会議所
- インバウンドサポート事業を実施している「IN HAMAMATSU.com」を運営する株式会社mocha-chaiと繋がり

今年度の構想(希望)

- ドローンや全方位カメラによる映像資産構築
- 他地域での電子教材作成(西浦の田楽)
- 株式会社mocha-chaiと繋がりで浜松地域の日本伝統文化(祭り)の英語での紹介